

2021

地域連携事業成果報告書

COCプラス推進本部事業

- とくしま創生人材・企業共創プログラム

地域連携の取組

- 総合科学部
- 医学部
- 歯学部
- 理工学部
- 生物資源産業学部
- 病院
- 情報センター
- 人と地域共創センター
- 高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班
(インターナショナルオフィス)
- 高等教育研究センターアドミッション部門
- 高等教育研究センター学修支援部門
- 大学産業院
- バイオイノベーション研究所
- 研究支援・産官学連携センター
- 環境防災研究センター
- 先端酵素学研究所
- 附属図書館
- AWAサポートセンター
- 研究・産学連携部地域産業創生事業推進課

とくしま創生人材・企業共創プログラム

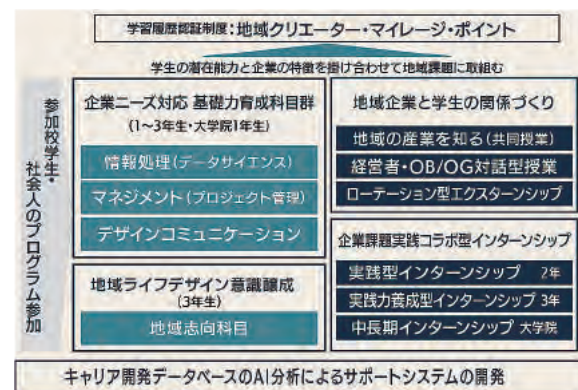
事業のポイント

■ 令和2年度に文部科学省 COC+R事業 とくしま創生人材・企業共創プログラムが採択され、事業開始に向けた体制整備等を行い、本年度からは本格的に取り組みをスタートした。

事業の概要

1. 事業の目的

我が国の最重要課題である地方の人口減少問題については、これまで国内で克服に向けた様々な施策が組み立てられてきたが、少子高齢化による急激な人口減少とともに、東京圏への一極集中の傾向が継続している。地方への若者の定着を図るためには、地方国立大学は魅力ある学びの場をつくとともに、地域の中核的産業の振興と、これを担う実践的な専門人材の育成を推進することが重要である。(令和元年12月『第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」』) 本事業の目的は、地元企業と連携した新たな教育プログラム“とくしま創生人材・企業共創プログラム”を設置することで、地域を担う質の高い人材を大学が企業等と協働して育成し、それによって、県内企業等の魅力・経営の向上と県内への人材定着の促進という好循環を創出することにある。



(図1) 事業概要図

具体的には、徳島県内で将来性・発展性・先進性を備えた企業群と連携して、これら企業等の人材ニーズに対応した基礎力育成を目指す授業科目群と企業等との関係性構築と課題解決実習を開設し、学生の資質形成と企業の採用力及び経営力の向上を同時に実現する教育プログラムを開発する。

事業代表者・連絡先

COC+R事業事務局
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 地域創生・国際交流会館3階
tel: 088-656-9888 fax: 088-615-4477
e-mail: coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp

2. 事業の取り組み状況

① 参加校共同授業「徳島の魅力・徳島で働く」

● 授業の目的

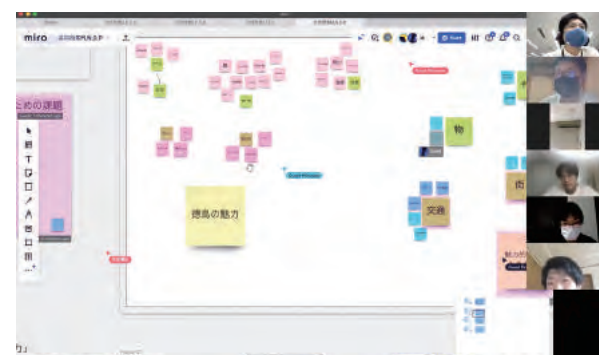
徳島県の課題や将来のビジョン、取り組みについて、地域の識者から学び、地域づくりの方策を話し合うことで、徳島県の魅力について理解を深める。

● 授業の概要

徳島県知事をはじめ、県内で活躍するリーダーや県内高等教育機関のOB・OGを講師に、徳島の課題・仕事・暮らしの魅力に関する講演、トークを実施。さらに異なる大学間の学生が交流したワークショップで徳島を元気にする新たな試みを提案・発表する。

● 実施状況

令和3年8月19日(木)、20日(金)、23日(月)、24日(火)の4日間において配信環境整備した創生スタジオからオンライン配信を行い実施した。受講者は113名であった。なお、本授業はオンラインで他県に進学した県出身の学生等(7名)も一般聴講者として受講した。受講者からは、まだ知らない徳島の一面を知ることができたとの感想があった。



(写真1) 共同授業グループワークの様子



(写真2) 共同授業トークセッションの様子

② エクスターンシップ(地域企業を知る・読み解く)

● 授業の目的

将来、徳島県内で働きたいと考えている学生を対象に、地域の業界・業種についての理解を深め、地域企業と繋がりを築く。

● 授業の概要

自らのライフプランを考える最初のステップとして、徳島県内で働く、有望な業界・業種の理解をする。続いて、企業等の経営者・OBとのグループ対話を行い、企業等を半日程度訪問し、つながりを築く。

● 実施状況

・参加企業・団体:20機関・受講者:1年生(通年開講)45名(徳島大学:42名、徳島文理大学:3名)

● 参加企業・団体の感想

・学生からの感想(フィードバック)で、企業の何が知りたいか、どんな話が聞きたいかというポイントを知ることができた。また、会話の中で、コロナ禍で学生生活がどのように変化しているかなど、今学生がおかれている状況を知ることができた。

・こういった情報を発信すれば良いのかという事が少し理解できた。

シンプルかつ分かりやすい内容を一次情報として伝えるべきだと感じた。

・課題・フェーズを変えて、学生と接触を持つうちに、同じ学生が毎回当社に接触していただけることで、当社に興味関心を持ってもらえていると思える学生が絞り込まれたと思う。学生と少しでも交わりを持って、業界・業種・業態を少しでも知ってもらおう機会になった。



(写真3) 学内エクスターンシップの様子



(写真4) 学外エクスターンシップの様子

③ 実践型インターンシップ

昨年度に引き続き、事前学習からインターンシップ、事後の振り返りまで「課題・レポート・ディスカッション」を繰り返す「寺子屋式指導法」によるインターンシップ「実践型インターンシップ」を教養教育科目として開講した。本年度のインターンシップは新型コロナウイルスの影響が見込まれていたため、当初よりオンラインで進めていくことを想定しプロジェクトを設計した。学内教職員4名がドン(学内メンター)として参加するとともに、14名の学生が4機関で課題に取り組んだ。最終報告会では、参加企業・団体からは、プロジェクトを通して会社としての新たな取り組みに関して seeds となる成果物が生まれたこと等についてコメントがあり、学生からは実務や経験を通して学びを得たという主旨の感想があった。



(写真5) インターンシップ生入社式の様子



(写真6) 中間報告会の様子

【参加校との連携状況について】

四国大学、四国大学短期大学部、徳島文理大学と連携し、前述のエクスターンシップなどの地域学習・実習科目と、情報処理、マネジメント、デザイン・コミュニケーションの3つの分野からなる基礎力育成科目、簿記、会計などの資格取得サポート科目などで単位互換を行える仕組みを整えた。該当科目は現在21科目である。単位互換制度により、受講を希望する事業参加校の学生誰もが他校のプログラム科目を受講し、自らの単位として認定できるようになった。